

校内研究だより

平成23年6月20日
No. 2

6月13日(月)は、第2回校内授業研究会がありました。土田先生ありがとうございました。ブロック研なので事後研は高学年ブロックの先生方で行いました。その中で話し合われた内容について報告します。

6の1の授業研究会から「比とその利用」から

<知る段階>

学習内容の確認、共書き、予習段階での理解度チェック、例示を使った説明を含めて10分とコンパクトにまとめている。

- 言葉の共書きは問題を解いた後の方がイメージできるのではないかな？抽象的な文章で低位の子どもは分かりにくいのではないかな。
- 予習をやっている前提なので、大事なところから入っている。また、前時とのつながりがあれば抵抗は少ないと考えられる。
- ・新しい場面の際は、問題を絡めながら大事な文章に入っていくてもよい。
- 予習の内容は？→教科書を読む、試写する、教科書の問題を解く。(学年に応じてだが)

<確かめる段階>

子どもが前に出て説明して確かめ合うことで、**考える段階での手がかり**になっている。

- 子ども達が問題を解いている様子を見て「**矢印や□**をかいて・・・。」と指示。
- 知る段階で先生が板書していること、説明に使えるアイテムなのに言われなかけない。
- 教えることを繰り返す**ことによって教え方が進化

1人目より2人目に教える方が上手に説明できるようになる

説明する力の一つ

多くの学級で同様？子どもに書く必要性を持たせる指導が必要。書いて当たり前になれば・・・。

<考える段階>

グループでの説明し合いで、活発に話し合っている。最後に**子どもの説明を共書きした文章に振り返らせて理解を深めている。**

- 友達と関わり合うより一人でじっくり取り組みたい子どももいる。
- 時間内で解決できなくても、最後の説明を聞いて分かるのであればよいのではないかな。
- 比の問題なので1あたりの量ではなく出させたい。
- 三口の連比は難しい。比の値を使うのも難しい。同じ数でわったりかけたりすることは、比の性質を使っているのではないかな。

【校長先生から】

- 覚えよう** **めあて** **練習** の**マグネット**がよい。
 - 子どもが学習リズムを作れる。
- 共書きのスピード**が速い。→**集中力**を高める。
- 学び合**って、**関わり合**って**集団**としてまとまっている。
 - 日ごろの学習訓練**。



本時の目標が「等しい比の性質を理解する」ならば、

8 : 6 = 240 : □ のように考える必要があるのではないかと。活用・発展問題として扱うのであれば構わないが。

そのためには

	8カップ	6カップ
卵	240g	□
牛乳	400g	□
砂糖	80g	□

表に6カップの欄を付け足してやる。

○教師は2つの答えを求めている。

1つは、**正答**。 もう一つは、**考え方**。

正答を求めるのではなく、**考え方を説明できること**を求めたい。

極端に言えば、正答を与えて「なぜ、そうなるのか説明させる。」

○分からないことを恥ずかしいと思わない。

「分からないのがあたり前」の意識を子どもに持たせる。

○理解を深める問題を子ども達に。

○最終目標は（3月には、この子を発表できるようにするという目標を持つ。）

今、分からなくて悩んでいた子どもが授業の最後に発表できるような授業作りを。

指導案の書き方について

(1) 視点の書き方について

【指導にあたって (3) 指導について】で書く内容と【本時の指導】で書く内容については、当然ちがっていいと思います。

視点1 <生き生きと学ぶ指導法の工夫>		視点2 <考え合うための場作りの工夫>	
指導にあたって	本時の指導	指導にあたって	本時の指導
<ul style="list-style-type: none"> 教えるための手立て 「教えること」「考えさせること」明確にした単元構成の工夫と教材研究 モジュールによる単元構成の工夫 (2M, 4M) 	<ul style="list-style-type: none"> 教える段階の工夫 教える内容 確かめる段階の工夫 考える段階の工夫 (算数のねらいにせまるための理解深化問題、算数的活動など) 発問と指示の吟味 	<ul style="list-style-type: none"> 意図を明確にした発表・交流の場の設定 ねらいに応じた交流形態の設定 教わったことが活かせる理解深化問題の設定 子ども同士のやり取りのある授業 	<ul style="list-style-type: none"> 発表、交流の場・交流形態の設定と具体的なめあて 考える段階の工夫 (めざす子ども像にせまるための手立て)
算数のねらいにせまるための手立て		めざす子ども像にせまるための手立て	

上記のように考えてみてはいかがでしょうか。

(2) 指導計画

4 指導計画 (全10時間…30M扱い) 本時7教時目 ~~19~~~21M目

書かない

時数 (M)	ねらい	主な学習内容 (○指導や支援 □評価基準)	
		教える段階	考えさせる段階
1 3M	学習内容の理解を確認する	・5年の小数や小数を分数に直す学習内容の確認問題を解く。	

書く

(3) 「研究テーマとのかかわり」と「○学年のめざす子どもの姿」を加える。(土田先生指導案参照)

○学年のめざす子どもの姿は、第1回研究全体会資料の5ページ目にあります。ブロックで検討していただき変更しても構いません。

(4) 座席表(支援表)を資料として加える。(土田先生指導案参照)